まちづくり濃縮100％！

M-CAN Juice

NPO法人 M-CAN（三島コミュニティ・アクションネットワーク） ニュースレター『ミカンジュース』

Vol. 8
2012年1月発行

子どもの社会起業塾
「みかん狩り」「ジャム作り」

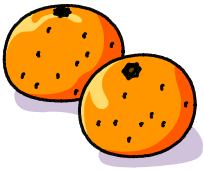
「お互いさま」といえる地域社会を創りたい
～三島ふくし知恵のわプランの策定にあたって～

連載『魚の目・虫の目・鳥の目』
ニュースレター（こえんひろば、ひなた）

報告：菜の花卓球大会

ご案内：新年のつどい

とれたての情報をギュッとしぼった
Fresh&Squeeze! 100%
ミカンジュース



子どもの社会起業塾で

M-CANでは2011年の春から子どもの社会起業塾という新事業に取り組んできました。駄菓子屋にくる子どもたちが単なる「消費者」でなく「生産者」となり、お金とは何か、お金はどのように循環するのか、100円を稼ぐとはどういうことかを一緒に考える機会をつくろうと、これまでに廃油キャンドルづくりや廃油石けんづくりに取り組んできました。

今回はマイクロバスに乗って和歌山県有田市のみかん畑に行ってきました。以前、茨木市社会福祉協議会に勤めていた村木さんのお知り合いの井邊さんのご好意で、無料でみかん狩りをさせてくださることになり日帰りでみかん狩りをしてきました。

参加者は、みかん屋常連客のMishima寺子屋の子どもたちやあすなろ会のメンバー、駄菓子屋でお茶会を開催している地区福祉委員さんに加えM-CANのスタッフやボランティアさんなど総勢35名となりました。

茨木から約1時間半の移動の後、到着したみかん畑には見事なオレンジ色に熟した温州みかんがたくさんなっていました。みかん狩りに費やした時間は1時間ほどでしたが、段ボール約20箱のみかんと各自がリュックサックいっぱいにみかんを収穫し、子どもたちは大喜び！山の斜面に座って食べたもぎ立てみかんの味は一生忘れないでしょう。

みかん狩り

みかん狩りに行ってきました

大量のみかんを腐らせてはいけないということで、みかん狩りの4日後、みかん狩りに参加した子どもたちと一緒にみかんジャムづくりに挑戦しました。みんなでみかんの皮むきをし、ミキサーにかけ、お鍋で砂糖とコトコト煮立てること約1時間、おいしいみかんジャムが完成しました。

試作品のジャムは手伝った子どもたちがもって帰り、品質改良を加えて商品化を目指したいと思っています。M-CANのみかんジャムが三島の特産品になる日もそう遠くないかもしれません。

なお、「子どもの社会起業塾」はキリン福祉財団の助成金を受けて実施しています。みかんジャムやみかん石けんなどの製品販売から得られた収益は東日本大震災の被災者支援に寄付させていただきます。

ジャムづくり

「お互いさま」といえる地域社会を創りたい

～三島ふくし知恵のわプランの策定にあたって～

社会福祉協議会のモデル事業である「三島ふくし知恵のわプラン」の策定懇談会が、いよいよ三島地区で動き出しました。３年間にわたる「福祉のまちづくり」の方向性及び、モデル事業の視点について、懇談会の事務局長である福祉委員会の大北委員長に報告（寄稿）していただきました。

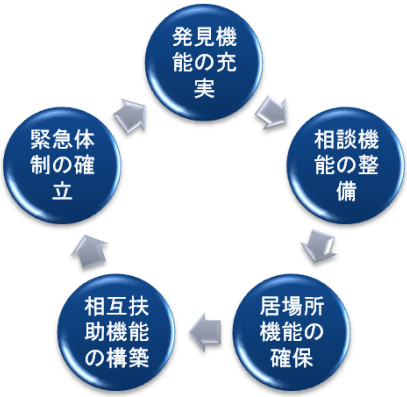
三島地区で、いよいよ地域福祉活動計画（三島ふくし知恵のわプラン）の策定懇談会が立ち上がった。この懇談会には、地域内の各種団体・施設・事業所などから37団体（者）もの参加があった。本当に有り難く、ただただ感謝の言葉しかない。かつて、これほどの地域内諸団体が集まってひとつのテーブルを囲んだことは、私の記憶にない。それだけに、3年間のモデル事業の内容とプロセスが注目されているし、どの様な「まちづくりプラン」を進めるのか、「みしま」の地域と福祉委員会の真価が問われている。

今回、社会福祉協議会は「水尾・沢池・西・三島」の4つの地区を選定して、モデル事業を実施する。この選定は、今となっては非常に興味深いものとなった。

周知のとおり、沢池校区と西校区は、行政が鳴り物入りで実施する「地域セーフティネット」のモデル地区である。当然ながら「人」も「費用」もかけ、行政が必死になって、まちと相談の仕組みの構築を目指している。水尾地区は「地域担当職員」制度が定着し、行政職員がパイプ役になって、まちづくりに取り組んでいる実績が存在する。三島だけが、行政の関与が「何もない」のである。それだけに、この4つの地区で取り組まれる「福祉のまちづくり」のそれぞれの成果が、費用対効果も含めて、茨木の中で「サンプリング」として大きな意味を持つことを願ってやまない。

私達は今回のモデル事業で、三島地区の「ふくし」が目指すべき「5つの機能」を事前に示すことにし、その具体化にむけて懇談会を方向づけることにした。懇談会は、プロセスも重要であるが、結果も地域住民に反映されるだけに、責任を持つ必要があると思うからである。改めて、私達が考える「5つの機能」について報告したい。

★目指すべき５つの機能



機能の１つ目は、「発見機能」の充実である。これは、2000年に厚生労働省が、「社会的援護を必要とする人々に対する社会福祉のあり方検討会報告書」で示した「発見それ自体の重視」というテーマであり、昨年の「消えた高齢者問題」でクローズアップされた地域機能でもある。M-CANが進めてきたCSWを中心とした「いきいきネット」の構築は、この「発見機能」を強めていくためのものでもあった。内閣府参与に就任した湯浅誠氏は、この発見の機能を「隣のしんどさに気付く誰かの存在」と表現した。インクルージョン社会（包摂型社会）の基礎としての機能でもある。お節介だがお節介と感じないハイカラな地域システムを創りあげたい。

2つ目は、「相談機能」の充実である。これは単に、相談窓口を整備するという表面的なものではない。「おはよう」といえる人と人の関係づくりなのであり、これを三島の福祉委員会は、「福祉のCO5（別掲）」と表現している。この「ふくしCO5」を基礎にした委員会活動を再構築する機会として、今回のモデル事業を位置づけている。

3つ目は、「居場所機能」の確保であり、地域の人の安心場所や憩いの機能としての居場所づくりをめざすことにある。この機能は、単に物的な場所としての機能だけをいうのでなく、仕組みや隣近所の人間関係の表現としても位置づけたい。また、居場所の機能を作るということに拘るのでなく、各機関が地域住民の多様な居場所をどの様に把握し、認識出来ているのかを問うことにもある。

4つ目は、「相互扶助機能」の整備にある。「自助・共助・公助」の切り口でまちづくりを進めることを基本にして、共助の楽しさを表現できるまちづくりを目指す。そのために、委員会や懇談会としての住民テーブルを多様化させ、人材のコーディネート・ファシリテーションスキル（調整する力・引き出す力）を高めることと、わかりやすいキャッチフレーズなどを活用した、地域あげての作風づくりに取り組みたい。

最後の5番目の機能は、「緊急時体制機能」である。上記の4つの機能は、これまでも地域の福祉活動の基本として位置づけてきたが、今回のモデル事業を踏まえて、とりわけこの緊急時機能を整備することを特徴づけたい。もちろん3．11の教訓を生かすという視点もあるが、年に1回ぐらいは福祉における地域の取組を集約させ、それぞれの住民が振り返りながら仕組みを確認する機会を作ることは重要だと考えたからである。地域の住民にボランティアなどの支援する側に回ってもらうには、「照れ」もあってなかなか難しいのだが、「緊急時には…」という条件を付帯することでハードルは下がる。そんな仕組みづくりを提起したいと考えている。

三島のふくしCO^5

コミュニケーション Communication	・あいさつを基本とした気軽な声かけの作風づくりや、各種行事などの出会いの場等の創造
カウンセリング Counseling	・決して専門的な相談援助を意味するのではなく、子育て経験を伝えたり、介護の苦労話を共有したりする、ピアと呼ばれる機能
コーディネーション Coordination	・それぞれがバラバラで提供されている福祉サービスを、当事者のことを良く知る立場から調整したり、効率的に組み替えたりする機能
コンサルテーション Consultation	・地域住民の生活課題を明らかにして、解決のための各種事業や相談会などを企画・実施していくこと。またその上で、当事者に的確なアドバイスを与えることができる機能
コラボレーション Collaboration	・課題解決のため、福祉だけでなく多方面の力合わせを組織する力、地域住民の力合わせを調整する力

★協働と共感のまちづくりを・・

３．１１以降、「絆」という言葉が多用されている。我々も、人と人の強い結びつきをイメージして、「絆」という言葉を好んで用いてきた。しかし、これまで「絆」の意味を深く考えることはなかった。

「絆」とは、もともとは馬を繋ぎ止めておくための綱（木綱）が変化したものとされている。その木綱での結びつきを、人と人の切っても切れない関係として表現した言葉が「絆」であるようだ。

しかし、その木綱が無くてもそこから離れずに主人をじっと待つ馬と、木綱でしっかりと結ばれた馬とは、どちらが本当に信頼関係が深いのだろうか。「絆」とは、一体どのような状態を表現するのだろうか。この一見、何の関係もないような問答に、今回のモデル事業の神髄があると私は思えてならない。絆とは、綱を太くすることなのか、それとも見えなくても伝わる安心感なのか、みんなでしっかりと議論したいし、三島なりの答えを見つけ出したいと思う。

「三島ふくし知恵のわプラン」の作成事業は、３年間のモデル事業として実施される。地域が持つ包摂力（インクルージョン）を、どのように形にすることができるのか知恵の出し所でもある。多くの地域住民の参画を願うばかりであるが、とりわけＭ－CANの強い企画力と牽引力に期待している。引き続きのご支援をお願いするばかりである。

三島地区福祉委員会　委員長　大北規句雄（おおきた　きくお）

次回「三島ふくし知恵のわプラン策定懇談会」のご案内

次回の懇談会は、「まちづくりオープン講座」として位置づけ、三島地区にお住まいの方を対象にしたまちづくり学習会として開催されます。まちづくりに関心のある多くの皆様の参加をお待ちしています。

と　き：平成24年１月22日（日）　午前10時～12時
ところ：三島公民館
内　容：講演会「震災から見えたまちづくり」
寺川政司（近畿大学准教授）

三島地区にお住まいの方なら、誰でも参加いただけます。

連載

魚の目・虫の目・鳥の目

第5回

食を職へ

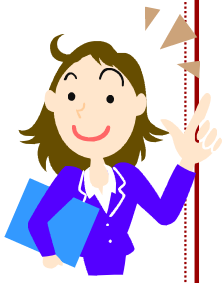
～食と職をつうじたまちづくり～

M-CANの会議やイベントに時折参加される佐々木妙月さんの豊中でのとりくみについてお話しいただきました。

熊本さんから、三島のまちづくりのとりくみや三島の人たちのまちづくりへのかかわり、とくにCSWの３人の女性たちのとりくみを聞いていました。熊本さんが、「このまちだったら何があっても安心して暮らせる」と語っていたことに関心をもち、M-CANのとりくみに参加させていただくようになりました。

28年前に、自分たち＝女性たちの仕事づくりのための会社をたちあげました。「女性の経済的自立のための職場の確保と、女性のステップアップを目的とした職業トレーニングの機会が必要。仕事を通じて社会問題の解決をはかろう！」という問題意識から、友人2人と起業しました。

現在は、助成金を受けながら、シングルマザーの就労支援と、生きづらさを抱えている若者たちの居場所づくり・仕事づくり・つながりづくりを豊中でやっていますが、来年度からは、事業の自立化をはかりながら継続していくことが課題でありミッションです。



ぐ～てんのフリーマーケット

女性が抱える課題も、生きづらさを抱える若者の悩みも共通するものがあり、仕事に就くためのトレーニングの場として、「ぐ～てん」という若者の居場所兼工房や「若者仕事準備室dandan」をはじめました。２軒ともスタッフが若者たちと一緒に何日もかけて手作りで改築しました。今では地域の人が気軽に立ち寄れる場所になりました。ワークショップやフリーマーケットをやったり、地域の人が講師となった若者向けのものづくり企画をやっています。週に１回、若者たちが地域のごみ拾いに行ったり、近隣のお店のボランティアをさせてもらったりしながら、地域の人とつながっていくトレーニングにもなっています。

紙漉き作成行程

手打ちうどん実習

就労支援の中でもとくに力を入れているのが、「雇用の創出」です。去年と今年は、助成金を受けて、シングルマザーの雇用創出事業を行いました。一定期間しか雇えないのですが、将来をみすえて、働きながら資格を得る事業にしました。雇用した人全員が調理師免許を取得することができました。そのままその方面の仕事に就く人もいましたし、介護施設の調理に入った人もいました。免許を取ったらそれが活かせる場をつくりたい、という思いがわたしの中には強くあったので、資格を活かして働ける場として、2011年9月に、豊中市庄内に「銀座食堂」をオープンしました。シングルマザーの皆さんを中心に、働きたい時間に働ける場づくりをしています。

庄内銀座という商店街があるのですが、大型店舗の出店で、小さな店舗がどんどんつぶれていってシャッター通りになっています。銀座食堂の目の前には有名な豊南市場があって、物価が安くてにぎやかなんですが、それでも全盛期の５分の１とか。高齢者が夫婦や一人でやっている店が多くみられます。そこでシングルマザーや若者と一緒に何かできないかなと思っています。地域の人から声をかけてもらう機会も多く、地域活性化・商店街活性化の拠点としても機能させていきたいなと思っています。これからも、この商店街で地元の人たちと組んでやっていきたいと思って、銀座食堂の近隣とつながりをつくっているところです。

食堂は、有名な豊南市場のすぐ隣！

「銀座食堂」ブログ
http://ginza-shokudo.com/

銀座食堂は14席ですが、地域の人たちの出会いやつながり、語らいの場にもなってきました。オープン当初の９月は昼だけ営業していましたが、10月にはお弁当を始めて、11月からは夜も営業しています。無理せずに段階を踏んでやってきました。女性のためのワークシェアリングの場としても機能させていきたいと思っています。今は、わたし自身も、スタッフの一員として入っています。シングルマザーや短時間労働を希望する女性たちの「食場」づくりを一緒に挑戦していきたい。それはわたしたちにとって、誰もが経営できる・働けるモデルづくり、ワークシェアリングのモデルづくり、ソーシャルファームの成功事例づくりでもあります。

「銀座食堂」で大人気のハンバーグ

そして、銀座食堂がモデル事業となり、高齢者も障害者も外国人も誰でも働ける職場がつくれたらいいなと思っています。銀座食堂のような小さくても働く場が地域にたくさんできていったら、人もまちも元気になっていくのかもしれないなあ、と思います。三島でもいつかそんな場所が皆さんとつくれたら、と夢想しています。

文：熊本理抄（くまもとりさ）

「こえんひろば」ニュース

めざましテレビの“ゆるきゃらコーナー”で茨木市の「イバラッキーちゃん」がこえんひろばに来てテレビにうつりましたよ。テレビ写りは広くてきれいに写っていました。

月に1回スタッフによる絵本の日を開催しています。定着して、人数もだんだん増えてきていまーす。

こえんひろばに『来たくなるワケ』
～お母さん達の声～

家を離れて、子どもと1日1回はしっかり向き合って遊ぶ場所としてリフレッシュしていますね。

他の子どもと遊べる機会を作ってあげています。1人だとグズグズが多いけれど相手がいるとぐずることもなくなりますね。

ママ同志の情報交換になるので、育児で悩んでいることも解消されていますね。

こんな場所でおしゃべりしたい子どもたちは自由にウロウロしてご機嫌にすごしていますよ

高価なオモチャもあったりして・・・

手作りの野菜もあるよ

本もたくさんありますよ

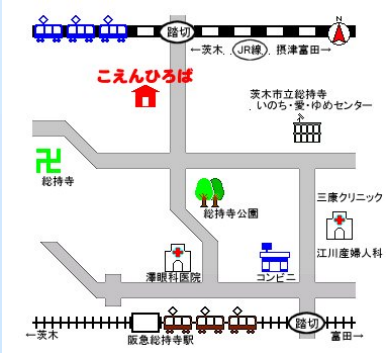
こえんひろばへいらっしゃ～い！

こえんひろばは、乳幼児の在宅親子が、地域で安心して、生き生きと子育てができるように、お手伝いするNPO法人です。一度、遊びに来てくださいね。

プレママ、おばあちゃん、パパの参加も大歓迎♪です。

所在地：〒567-0801
大阪府茨木市総持寺一丁目17-21
総持寺グリーンハイツ101

電話/FAX：050-1070-0878



くわしくは、ホームページをご覧ください！
http://www.koenhiroba.net/

街かどデイハウス「日向（ひなた）」

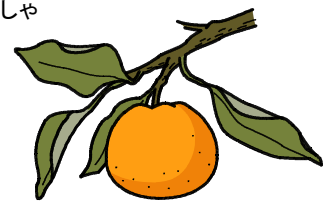
～　敬老会・観劇会・みかん狩りを終えて　～

９月３０日に、ひなたの敬老会が行われました。地域の方の特別参加、保育所年長さんのかわいい演技、スタッフの寸劇「水戸黄門」等の出し物や、民謡教室の先生をお招きしての民謡合唱、スタッフ持ち寄りのささやかなプレゼント等で、敬老会の一日を楽しんでいただきました

10月13日には、「中条きよし演劇会」のチケットをいただき、新歌舞伎座まで観劇に行きました。

また、１１月１４日には、毎年恒例のみかん狩りに行きました。お天気にも恵まれ、暖かい１日をみかん畑の中で過ごしました。昨年と比べ、今年のみかんは大粒でどれをとっても甘く、自分でとったみかんを満足そうに食べておられました。みかん狩りには地域から介護予防に来られている方々も参加され、意義のある行事になりました。

日頃、夜は眠れないとおっしゃっている方もその日はぐっすり眠れて、翌日に、「こんな気分のいい日は久しぶり。また近いうちにみかん狩りに行きたい」とおっしゃっていました。



次は１２月に行われる保育所・小学校との合同クリスマス会で、どうすれば利用者さんに喜んでいただけるかといろいろ考慮中です。

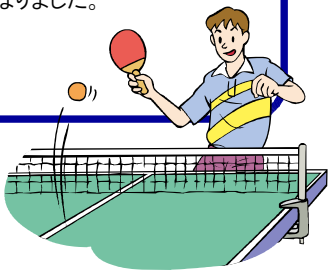
菜の花卓球大会

11月19日に恒例の卓球大会が地域活動支援センター菜の花で開催されました。当日はあいにくの雨となりましたが、三島中学校の男子卓球部1チーム、菜の花2チーム、秋桜1チーム、M－CAN1チーム、民生福祉委員1チームの約30名ほどの参加がありました。参加人数は例年より少なかったのですが白熱した楽しい試合となりました。

毎年、中学生が優勝するので今年こそは「大人の強さをみせてやろう！」と意気込んで試合にのぞみましたが、結果はやっぱり中学生チームに優勝を持っていかれてしまいました。練習不足のせいか年齢のせいかはわかりませんが中学生は手強かったです。

M－CANチームと民生･福祉委員チームは何十年ぶりに（中には半世紀ぶりに）ラケットを握る人もいて仲良く5位6位でした。日頃の運動不足を解消する半日となりました。

今年は審判も中学生が交替でしてくれて三島中学校の顧問の先生にもお世話になりました。ご協力ありがとうございました。



今年も賑やかに！！
「みしま新年のつどい」

毎年恒例となっています、三島地区新年の年賀交流会「みしま新年のつどい」を、今年も中城支部・地域協議会・M-CANの共催で、下記の日程で行います。一年間お世話になった皆さんや、これから一緒に汗をかいてくださる皆さんにお集まりいただき、新しい年の出発を語り合いたいと思います。多くの皆さんのご参加をお待ちします。

恒例の豪華景品のあたるビンゴ大会も実施しますよ！
お楽しみに！

と　き：2012年1月27日(金) 午後7時～
ところ：総持寺いのち・愛・ゆめセンター

2011年「新年のつどい」の様子

編集後記

2012年の幕が明けました。そういえば以前に「2012」という人類滅亡の映画を見たことがあります。どうやら2012年という年は、古代マヤ文明における長期暦（マヤ暦）において、一つの大きな区切りとされる年で、1999年のノストラダムス大予言に続く終末とされているようです。

大阪府知事・市長のダブル選挙は、大阪維新の会の予想以上の圧勝でした。新聞各紙が伝えるように、既成の政党や政治が「NO」の審判を受けたことは明らかです。チュニジアの「ジャスミン革命」から始まったアラブの民主化の嵐は、欧米でも「格差デモ」として大きな広がりを見せ、ヨーロッパではユーロ経済圏が崩壊寸前です。これまでの概念や倫理観が否定されているのでしょう。私達も「これまで通り」と安易な判断と行動を続ければ、2012年は本当に「滅亡の年」になるかも知れません。

M-CANは、今年も地域に依拠し、そこに住む住民の変化と抱える課題を捉えながら、たった一人に表れる不幸と、愚直なまでに向き合っていこうと考えています。今年もよろしくご支援ください。

三島コミュニティ・アクションネットワーク　事務局

NPO法人M-CAN

三島コミュニティ・アクションネットワーク愛称M-CAN（ミカン）は、三島地域の助け合いの仕組みとして組織され、今では安威川東部エリアにおける福祉の拠点として位置づいています。

街かどデイハウス「日向（ひなた）」や配食サービス「ひざし」など、地域福祉にこだわった事業を展開し、「共生のまちづくり」など、住民一人一人が輝いて生活できる仕組みづくりを目指しています。

M-CANでは、設立主旨を理解いただき、一緒に「まちづくり」「地域福祉」を創って行く方を募集しています。

入会のお誘い

①個人正会員（年額）5,000円（一口）
②団体会員（年額）10,000円（一口）
③賛助会員（年額）3,000円（一口）

会員には情報誌「M-CAN Juice」をお届けします。

また、M-CANが実施する様々な行事の案内や事業活用が行えます。

個人・団体正会員については、総会での「議決権」が保障され、M-CANの意思決定に参画することが出来ます。

M-CAN Juice Vol.8　2012年1月15日発行
発行／NPO法人 M-CAN（三島コミュニティ・アクションネットワーク）
〒567－0802 茨木市総持寺駅前町15番21号　[TEL] 072-628-1415
[HP] http://m-can.net/　　[E-mail] m-can@mail.goo.ne.jp

印刷：株式会社プリントパック　／　デザイン：WWF